
こんな最終回だったらいいのになぁ～～

M3

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

こんな最終回だったらいいのになあ〜

【Nコード】

N1253Y

【作者名】

M3

【あらすじ】

避けられなかったきたる日が来た……。高杉率いる“鬼兵隊”と天人の軍人勢力が、幕府・江戸の町々を狙う！かつての同志は何を思い、この戦いに終止符を討つのか？！

ギャグマンガのシリアスほどおいしいネタはない（前書き）

めちゃくちゃ難しいことに挑んでるなあ〜とは思ってます）「」（
でもやりたかった！！

話が支離滅裂にならないよう、ゆっくり連載進めて行こうかと（笑）
なが〜い目と気持ちで楽しんで下さい！！

ギャグマンガのシリアスほどおいしいネタはない

時がきた

この時を

待っていた

あべこねあ

世界の終わりへ

さあ行くつか

松陽先生

-
-
-
-
-
-
-
-
-
-

「頭あ、お寄せよ」

「ん？なんじゃ陸奥、わしにか？？」

宇宙にて、表から裏社会まで貿易の幅を広げる星間貿易業“快援隊”。

その創始者であり、頭である元攘夷志士“坂本辰馬”は、部下である陸奥に声をかけられた

「面会の予定なんかあったか？誰じゃ？」

「さあの、なんせ名を名乗らん。だが、奴からは……なんだか危険なかがおりがした。帰ってもらった方が、わしはいいと思う」

「ん……。困ったの……。……外見は？」

「派手な着物に煙管をくわえ、左目に包帯を巻いた男じゃ」

「お？それはもしかしたら……」

ギャグマンガのシリアスほどおいしいネタはない（後書き）

高杉ラブなので、私の理想となる結末で終わらしたい！だが……出るかな（笑）

ギャグマンガのシリアスほどおいしいネタはないぞ

「おお〜！やっぱりおまんか！晋作〜」

「……………」

「生きとったんか！いや〜感動じゃの〜晋作」

「…てめえも変わらねーな辰馬。」

「どげんかしたか？今日は」

「なあに……ビジネスの話だ」

「せっかく久しぶりに再会したんじゃ！急ぎの用がないなら、一杯やらんか？」

「……………」

「ククク…さすがは宇宙をまたにかける貿易会社の社長さんだないいもん食ってんじゃないか」

「いやあ〜あはは！わしはあまり食わん。どうも口に合わんからの」

「そうかい……………だがいいじゃねーか。……………さぞうまいだろうよ。星空眺めながら呑む酒は」

「いや〜おまんには積もる話がたくさんあるぜよ！晋作。」

「……………」

「終結間近に姿見せなくなったときは死んだかと思ったぜよ」

「……………」

「あはは！まだおまんところして杯交わせるとはな！なあ！晋作！」

「……………」
晋助だ

「ツラと金時にはあったか？」

「……………。会ってねーような面してるか？」

「そうか！あはは！わしも会ったが、変わっちよらんかったな。
ツラも金時も」

「……………どうだかな」

「あはは！おまんら、宇宙でもあまりいい噂聞かんぞ？！大丈夫か？」

「…ほお。どんな噂だ？」

「ツラもおまんも、ずいぶん幕府のもんに噛みついて、表歩けんよ
うになつとるちゅつ話じゃ」

「辰馬あ…ツラと一緒にされちゃ心外だぜ」

「あはは！…そうか？…すまんすまん。…ずっと宇宙にいと、地上のことがさ…ぱりでいけんの」

「クククク……しらはつくれんな辰馬。……宇宙ウチウからの眺めはいいもんだろ。」

「……………」

「……俺も最近、宇宙そらの散歩が多くてな。」

そう語りながら、高杉は煙管をもち、煙草を吸い始めた……

「……………」

「江戸は……幕府は、天人に対して、どんどん懐を緩くしてくの〜」

「なにを今更……奴らは、俺達がガキの時から天人に頭を垂らして
じゃねーか」

「……………聞くが、おまんは、わしが憎いか？ “晋助”」

「……………」

「晋助え…わしは…もう分からんぜよ…江戸が、幕府が…。天人がどうか、先のことじゃなきに…ただ、わし自身が…今の江戸に對してどう思っとなるのかが…分からんようになった」

「……………」

「……あんな戦は……無駄に仲間殺されにいくようなものじゃった……あの江戸の、町々の地の下には、わしらの仲間達の骨が……いまも眠っとる。……わしには、もう踏めん……あの地は。怖おつて……もう踏めん
けど……わしらの仲間を殺した天人は……あの地を踏む。仲間達の骨の眠るあの地を踏む……」

「……………」

「なあ……晋助……おまんの言うとおり、宇宙からの江戸の眺めは最高じゃ……あの地を踏んでおらただけで、わしは……仲間を殺した天人とも貿易交わしとる……おまんは、そんなわしが憎いと思つた時はなにか？」

「……………」

「わしも……銀時のように、変わりゆくあの町で過ごせる強さがあったら。……桂のようには、己の信念を曲げず、町の変革を目指す行動力があれば。……おまんのように……全てを壊すという野心のまま突き進めたら。……けどわしは、もう誰かが死んでゆく姿は見とらない。」

過去にも未来にも向き合えず、一番中途半端なのは……わしじゃき。あはは！おまんらは、わしから見たらどいつもこいつも……格好良か侍じゃ」

「くそ真面目な顔して何を語り出すのかと思えば………クククッ。
そんなことかい」

「ん？わし、なんか可笑しくなること聞いたか？」

「安心しな辰馬…俺あどっかの貿易会社の社長さんには興味はねー

「よ

」……。」

「だがな……。まあ親切心で一言言っておくなら、ツラや銀時…江戸に用があるなら……明日に済ませて、宇宙そふにいることだな」

「晋助…おまん、本当にやる気か？それで、本当にええのか?!」

「どいつもこいつも、何回言わせりゃあいいんだか。俺はただ、壊すだけだ……この世界を」

「おまんには、何が残る。晋助」

「……………」

「気持ちは分かる。わしは……止めんし、止める立場でもないじやき。けど…飯に、天人も、幕府も、かつての友も…全て壊せたとして、おまんは…その後どげんする？」

┌ ┐
└ ┘

┌ ┐
└ ┘

「?!」

「……………辰馬あ…そんなの決まってるだろ」

夜に黒猫が横切ると縁起が悪い

万事屋

「銀ちゃんくん！定春が落ち着かないアル」

「ああ？」

「そうなんですよ。銀さん、定春……ここ2日間くらいなんだか忙しなくて」

「どーせただ糞してーだけじゃねーのか？ちゃんと散歩行かせてんのかよ」

「失礼アルな！ちゃんと行ってるヨ！」

「いやなんかそういう落ち着きのなさじゃなくて……」

「銀ちゃ〜ん!」

「おいっ！うっせーよ！定春！！何時だと思ってんだコノヤロー！
待て！伏せ！お座り！ちんちん！」

ワフッ！

あべじっ！！

「銀ちゃん〜ん！」

「銀さん！」

「いってえなてめえ！お主人様に何しやがんだ！」

「定春ううう！！いい子だからお寝んねええ！！！」

「まったく…テレビ聞こえねーじゃねーか…」

『江戸の心臓と言っても過言でないこの“ターミナル!!” 明後日
で10周年を迎えます!ターミナル周辺では、10周年の感謝祭が
開催中ですよ!なんととっても目玉はターミナルマスケットキャラ
“ター棒”です!可愛いですね 』

「モザイクかかっちゃってんじゃねーかあ!分かんねーよ!可愛い
さ伝わんねーから!醜態しか伝わってこねーから!金〇にしか見え
ねーんだけどおお!」

「すごい盛り上がりらしいですよ。ターミナル」

「んなこと知るかよ。俺にはかんけーないね」

『明後日には、様々な星の皇子がいらっしやるそつで、あのバカ……
八夕皇子も久々に地球に帰ってくるとか！さらに！さらに！かつて、
公に姿を現さなかったあの江戸城の上様も足を運ぶとの噂も』

「バカつてまた完全に言っちゃいましたね」

「帰ってくんないよ……あのバカ皇子……っーかさ、公に姿出しまくっ
てるからね……上様。姿だけでなく俺達には前に醜態までもさらして
るからね！上様！」

「明後日は真撰組大忙しですね。ターミナルと上様の護衛で引っぱりだこじゃないですか？」

「へんっ！いい気味だぜ！！」

「それにしても……ターミナルが建って……10年も経ってたとはな」

「銀さん……建設当初を覚えてますか？」

「あ？お前からまだ生まれて……」

「ないですね。たぶん神楽ちゃんも」

「つつても俺もほとんど覚えてねーわ……まじまじと眺められるようになってきたときにゃ……ほとんど完成形だったからな」

「えっと……攘夷戦争中ときには……」

「………そんなもん造ってるなんて知る由もなかったな……少なくとも俺は。」

「定春ううう！静かにするアルううう！！！」

「うるせーんだよ！さっきから！！今ちよつと銀さん真面目だったんだよ！？雰囲気ぶち壊すなよな！もういいから寝ろ！」

真撰組

「皆は分かっているとおり、明後日はターミナル10周年感謝祭の警備と、上様護衛が重なっている。真撰組も二手に分かれ任務を遂行してもらうこととなった。トシ。」

「ああ。…今から班を発表する！十隊あるわけだが、奇数の1、3、5、7、9隊はターミナル警備、偶数の2、4、6、8、10隊は上様護衛にあたってもらうことにする！俺と近藤さんはなるべく両方に顔だそうと思ってはいるが、基本は上様に付くことになる。…総悟、ターミナル警備はお前が指揮をとれ。」

「分かりやした」

「伝達の際はパトカーの無線を使うが、内密の場合は山崎の走らせ
る！」

「了解です。」

「確かに、任務やる上で数は厳しいものがあるが……ここを越えたら、真撰組の株はかなり上がる！心して任務にあたれ！」

はい！！

「近藤さん、最後に何かあるか？」

「うむ。みな、真撰組大仕事だ！抜かりなく、隊総出で行くぞ！」

おおおお！！！！

「以上だ。解散！」

「トシ、明後日頼むぞ」

「ああ。久々の大仕事なんだ…へまは許されねえ。…しっかりしろよ！総悟、ターミナル警備は全部お前が指揮とるんだからな。」

「嫌だなあ…土方さん。俺がへますると思ってるんですかい？失礼しちゃうなあ」

「不安極まりねーわ！」

「ト」

「なんだ？近藤さん」

「真剣な話…本当に明後日は俺達も心してかった方がいい…と思
う」

「まあ、殿様いるわけですしねえ」

「いや……それだけでなく………とにかく、不吉な予感がする。何か起こりそうな予感だ」

「……」

「何かって…なんですかい？近藤さん」

「分からん。単なる勘だ」

「……………」

「……ゴリラの働ってヤツですかい……」

「トコ…っト…えっ？」

「総悟おおお！！」

とまるアパート

「姉さん…狛子が…」

「ん？なによ」

「狛子がなんか落ち着かないわ」

「………本当ね。物静かな狛子ちゃんが珍しいわね」

「定春ちゃんに何かあったのかしら？」

「確かめてみないことは何とも言えないわ。百音、明日午前中に万事屋に電話してみなさいよ」

「姉さんしてください。私明日忙しいの」

「引きこもりが何に忙しいんだあああ！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1253y/>

こんな最終回だったらいいのになぁ～～

2011年11月9日02時10分発行